



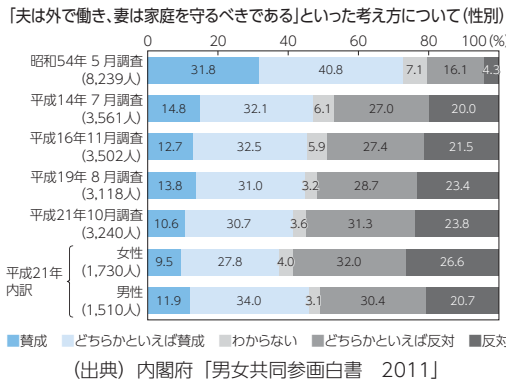
男性にとつての男女共同参画①

男女共同参画という、多くの方が「女性のためのもの」と感じているかもしれません。しかし、男女共同参画は、男性にとつても大きく関わってくるものです。今回から2回にわたつて、男性にとつての男女共同参画についてお届けします。

内閣府の調査によると「夫は外で働き、妻は家庭を守るべきである」といった考え方について（性別）「賛成（賛成+どちらかといえば賛成）」の意見よりも反対（反対+どちらかといえば反対）の意見の方が年々増加してきています。また、男女別に見ると、男性の回答はこれまで「賛成」が「反対」を上回っていました。が、平成21年の調査では、調査開始以来、初めて「反対」が「賛成」を上回りました（賛成45・9%、反対51・1%）。

調査結果から、男性の男女共同参画に対する意識も大きく変わってきていることが分かります。こうした意識の変化は、男女共同参画基本法の施行といった国の動向や共働き世帯の増加、

女性の雇用率の上昇など社会的な変化も要因となっているようです。また、男性の意識の変化により、このコラムで紹介してきたような「イクメン（子育てを楽しむ男性）」や「イクジイ（孫世代の育児に積極的に参加する男性）」が増えてきているのではないのでしょうか。しかし、まだまだ職場での役職や給料などは男女で差があったり、男性の育児休業取得率は低水準のままで推移しているなど、課題は多く見られます。今後、男女の役割についての意識がさらに変わっていくことで、これらの課題にも変化が見られるようになるかもしれません。



生活習慣病と狭心症・心筋梗塞について

循環器内科部長

山内正樹 医師

生活習慣病とは、生活習慣が要因となって発生する諸疾病のことです。高血圧、脂質異常症（悪玉コレステロールの増加など）、糖尿病（Ⅱ型）などがこれに当たり、放置すると動脈硬化を進行させます。狭心症・心筋梗塞は心臓に血液（栄養）を送っている冠動脈の動脈硬化が進行して出現する病気とされています。狭心症・心筋梗塞は「胸痛」「胸が締め付けられる」などが典型的な症状で、実際にこの症状で病院を受診される方が多くいます。

生活習慣病の中には血糖値、悪玉コレステロール値など、検査をしないと分からない病気もたくさんあります。狭心症・心筋梗塞と判明した場合には、薬剤などでしっかりと生活習慣病のコントロールを行うと、その後の経過が大きく変わってきます。皆さんも、お気付きの点などがありましたら、細かい検査（精査）を行うことをお勧めします。

一方、高齢者の方では胸痛を訴えずに、「労作時（体を動かすとき）の息切れ」「肩凝り」「咽頭部不快感」などの非典型的な症状を訴える方も少なくありません。また、特に症状を訴えずに検査で発見される方もいます。いわゆる症状のない（無症候性の）狭心症・心筋梗塞の頻度は、70歳未満の15%に対して、70歳以上は28%であるなど、高齢者は比較的高率との報告もあります（日本循環器学会虚血